

西脇市地域支援会議(運営会議)実施状況

	実施日	参加人数	実施内容
第1回	H25.6.18	22	運営会議の趣旨説明
			各事業所の概要説明。
			事業所での課題についての意見を出し合う。
第2回	H25.9.3	13	障害者総合支援法の概要説明 (障害区分認定やサービスの支給決定についての内容や計画相談、自立支援医療などについての説明)
			ハローワークによる就労支援の状況の説明
第3回	H25.11.26	19	グループ討議 (別紙1) 「事業所の課題」、「事業所の取り組み」、「この会議への期待」についての意見を発表しながら内容を整理する。
1グループ	項目	内 容	
	連携	事業所や学校は、行政や相談支援事業所と連携するために連絡をするよう心がけている。	
		この運営会議で、個別の支援内容の検討、事業所の空き情報、互いの事業所での工夫している内容などの情報を収集できることを期待している。	
	現状	利用者が少ない事業所もあれば、空きが少ないところもある。また病院からの地域移行が増えていたり、特別支援学校の生徒が増えている現状がある。	
	地域のつながり	居住地域の人たちとの関係が希薄になっている。	
		地域へのPRとして、自主製品の販売を広げている。	
	高齢化	利用者が高齢化している。高齢者から高等部卒業者まで幅広い利用者になっている。	
		保護者の高齢化が進んでいるため、親亡き後の生活の問題がある。	
		利用者の高齢化により体力の低下が気になる。	
	医療・在宅	薬の管理ができていないケースや重度障害児等の一時預かりが市内にない。	
居場所	下校後の居場所がない。		
	障害者の休日の過ごし方の問題や、長期休暇時に行く場所がない。		
活動場所	事業所が全員で外出するときに、重度障害者が多く介助者が足りない。		
	事業所のなかで、発達障害、知的障害など様々な症状があるため、同じ場所で過ごすことが困難な状況にある。		
2グループ	物理的課題	利用施設の選択肢がない。(市内の事業所が少ない、市外の送迎車が自宅まで来ない)	
		特別支援クラスの児童が増加し、担任がフォローしきれない。	
		事業所の職員の不足。	
	障害種別など個人の課題	障害種別による支援の違い、難しさがある。(状態に応じた仕事の提供など)	
		学校などでは、問題解決のための話し合いで個人情報の問題が生じる。	
		就労すると年金がもらえなくなるなどの心配がある。(制度と本人の状況)	
	情報交換	親から離れて生活できるように訓練するが、なかなかできない現状がある。	
		中学校卒業後の進路についての情報が把握できていない。	
		事業所等では、日々の振り返りやケース会議、計画の作成などに取り組んでいる。	
	運営会議への期待	空き家や、不要な道具など情報がほしい。	
協力し助け合いたい。			
障害者が地域で生活できるような支援を期待している。			
			障害者やその保護者が困っていることを地域の人に理解してもらいたい。

第4回	H26.1.31	13	前回の会議の内容から、ひとつの課題を掘り下げて検討(別紙2) 「高齢化」の問題について、当事者が高齢化することによっておこる課題と保護者が高齢化することでおこる課題に分けて意見を出し、全体で話し合う。(別紙3)
項目	内容		
当事者の高齢化による課題	親が動けなくなると、本人が元気で家での生活は難しい。		
	1人で生活できない。(食事の準備、金銭管理、清潔保持)		
	老化による能力の低下や意欲の低下。		
	高齢者となったときに今のサービスが適切であるか疑問に思う。		
保護者の高齢化による課題	保護者自身の体に不安を感じながら暮らしている。		
	保護者の体力の低下により、介護力の低下、病院受診など車での送迎ができなくなる。		
	保護者も年金暮らしとなり、経済的な不安がある。		
	保護者が当事者の兄弟への負担について悩む。		
	保護者は安心して預けられるところがほしい。(施設に預けたい)		
保護者も要介護となり、家族全体への支援が必要となる。			
項目	全体討議での主な意見		
高齢化に伴う支援内容	障害があるために、自分の老化を認知しにくい。そのために生活力の低下に気づかない。周りの支援者が状況を把握し支援内容を変更していくなどの対応が必要。また、通所事業所やヘルパーステーションなどの情報交換が必要。		
身体障害者の課題	身体障害者からの相談が少ない。		
グループホームの課題	住む環境が整っていなかったり、一日中家で過ごすなどの状況がある。在宅と入所の中間的な場所谁家かの目が届く生活の場所が必要。		
	グループホームを開設したいが、場所の調整ができない。		
	グループホームを利用したいとの声があるが、近隣の事業所など空きが多いのはなぜか。保護者は体験はするが、入居は否定的。		
施設の利用にかかる課題	保護者は、施設に預けることに罪悪感を感じている。また、預けることで周りからの批判を感じている。		
	保護者は、施設の支援に不安を感じている。(放置されていると思っている)		
家族の課題	保護者は、他人の世話になることへの抵抗を感じている。そのため、当事者の兄弟に介護を託すが、その兄弟が結婚せず介護をしている現状をみるとそれでいいのか疑問に思う。		
	保護者が高齢化し、経済的に困窮すると、当事者の年金で家計を補おうとするため、当事者を離さないケースもある。		
家族と学校の課題	保護者と学校との関係を見ると、学校で当事者が自立できるように指導していることが家ではできない状況になっている。学校と保護者が連携して、自立に向けた支援ができていない		
サービス利用の関する課題	保護者が安心して預けられる場所とは、清潔感があり、栄養管理、体調管理ができ、透明性のある支援ができることである。		
	サービスの利用が当たり前という社会になれば、保護者の負担が少なくなる。		

今後の運営会議の検討方法について

案1 課題がまだ出てくる可能性があるため、課題の掘り起こしを進める。(身体・精神障害にかかる意見など)

案2 現在出てきている課題の中からその内容を深めていく。その場合どの課題を検討していけばよいか。

案3 その他運営会議で検討が必要なもの。



